

RNA 医薬の創薬研究

[研究代表者] 北出幸夫 (工学部応用化学科)
[共同研究者] 宮本寛子 (工学部応用化学科)

研究成果の概要

ゲノム創薬化学研究室ではノーベル賞を受賞した生命現象である RNA 干渉を基盤とする新規核酸医薬の開発のためのプロジェクトを実施する。既に北出らによって開発された特許技術を用いて DDS (drug delivery system) 機能を有する新たなタイプのマイクロ RNA 医薬の開発を検討した。

- 1 特定のがん細胞などの疾患細胞膜に発現しているレセプターに認識される特異性の高いリガンド分子 (各種糖類やペプチド類など生体分子) を探索した。
- 2 得られたリガンド分子を架橋した修飾 RNA 分子を分子設計・合成を検討した。
- 3 合成した修飾 RNA 分子を用いて 2 本鎖化し、疾患細胞を自己認識するマイクロ RNA 医薬を開発する。次いで、がん細胞への選択的移行性やや抗がん活性など生物機能を詳細に検討した。
- 4 新規核酸トレーサー技術を検討した。

研究分野: 創薬化学、生物化学、核酸化学

キーワード: RNA 干渉、RNA 創薬

1. 研究開始当初の背景

近年、RNA は複雑な生命現象を制御している重要な分子である。RNA 分子は COVID-19 の mRNA ワクチンにみられるようなワクチンの応用に加えさまざまな創薬としての可能性を秘めている。特に、生体内に存在する 22-25 塩基からなる micro RNA(miRNA)は様々な疾患に関連していることが明らかとなっており、今後の創薬の進展が期待される。

RNA 医薬の開発において、RNA 干渉 (2008 年にノーベル生理学賞を受賞した現象)を効率良く誘導することが望まれている。RNA 干渉は、RNA-induced silencing complex (RISC)と呼ばれる RNA-タンパク質複合体を形

成し、mRNA のタンパク質の翻訳抑制を行う。RISC 形成は、がん遺伝子の発現制御や、他の疾患関連タンパク質の発現を抑制できる。この RISC と RNA 医薬の相互作用が RNA 干渉誘導のポイントである。RISC を形成するタンパク質群を Argonaute(Ago)と呼び、4 つのドメインから構成される。そのうち PAZ ドメインは、RNA 3' 末端結合ポケットを有し、RNA の相互作用に深く関わっている。我々の先行研究では、RNA 医薬の末端の高度修飾による安定な RISC 形成を報告している。本研究では、新規高度修飾 RNA の開発し RNA 医薬のさらなる展開の促進を目指す。

2. 研究の目的

新規高度修飾による、高機能 RNA 分子の開発を目指して、(1) 新規リガンド修飾 RNA、(2) 新規核酸イメージング分子の開発を行う。

(1) 新規リガンド修飾 RNA

新規リガンド修飾 RNA の合成として、アジド修飾リガンド誘導体やリガンド連結ホスホロアミダイト誘導体の合成を目指す。アジド修飾リガンド誘導体は、アセチレンを導入した RNA とのクリック反応を介して容易に連結することが可能である。先行研究では、アセチレン導入アミダイトを報告している。リガンド連結ホスホロアミダイト誘導体はクリック反応を介さずにリガンドを核酸に導入する手法として検討する。

(2) 新規核酸イメージング分子の開発

オリゴ DNA や RNA をはじめとする核酸医薬品の動態解析は、蛍光分子や陽電子放出各種(PET)の標識が用いられている。先行研究では、簡便な陽電子放出各種(PET)ラベル技術を開発している。しかしながら、これらの導入は、オリゴ鎖の一部の標識であることから、代謝によってオリゴ鎖の全体の追跡ができなくなる。さらに、陽電子放出各種の導入は、製造者や医療従事者の放射線の被曝のリスクを避けることは難しく安全な物質による技術開発が求められる。

本研究では、新たに水素の安定同位体である重水素を RNA の骨格に導入した新規イメージング分子の合成を目指す。重水素は、既に臨床の診断で用いられている重水素 MRI で診断可能であることから将来の核酸医薬の診断技術として期待されている。

3. 研究の方法

(1) 新規リガンド修飾 RNA

新規リガンド修飾 RNA の合成として、種々の合成ステップを経てアジド修飾リガンド誘導体とリガンド連結ホスホロアミダイト誘導体の合成を検討した。

(3) 新規核酸イメージング分子の開発

本研究では、新たに水素の安定同位体である重水素を RNA の骨格に導入した新規イメージング分子の合成を行なった。重水素標識は、岐阜薬大・佐治木らの不均一触媒の重水素標識法を用いた。本手法は、従来の重水素標識技術よりも安価でリボースの 2,3,5,5'位炭素選択的

に高効率な重水素標識を可能とする。軽水素リボースを出発原料に重水素化を行ったのち、塩基付加、さらに、ホスホロアミダイト体の合成を検討した。

4. 研究成果

(1) 新規リガンド修飾 RNA

新規リガンド修飾 RNA の合成として、アジド修飾の単糖(グルコース、ガラクトース、フコース、マンノース)や二糖(ラクトース)などの誘導体を合成した。一方、複数の糖が連結した分子は細胞の認識が向上する高価効果が知られている。したがって、分岐型のスパーサーを設計し複数の糖を連結した分子の合成を検討した。さらに、オリゴ核酸の固相合成で合成可能な、糖アミダイト誘導体の合成を検討した。グルコースアミダイト誘導体や、ガラクトース誘導体の合成を検討した。

(2) 新規核酸イメージング分子の開発

核酸医薬の実用化技術のための送達技術の開発に加え、診断を可能とする重水素標識核酸医薬の開発を目指した新規イメージング分子の開発に取り組んだ。PET 標識に変わる新規トレーサー分子の重水素で標識したピリミジン・プリンヌクレオシドの RNA ホスホロアミダイト体や DNA ホスホロアミダイト体の合成を検討した。種々の合成ステップで重水素化率の低下は見られずに安定した重水素標識分子の合成が可能であることがわかった。今後は、本研究をさらに推進しさらなる生命科学の発展に寄与したい。

5. 本研究に関する発表

(1) Kitamura, Y., Kandeel, M., Oba, E., Iwai, C., Iritani, K., Nagaya, N., Namura R., Katagiri H., Ueda H., and, Kitade, Y., A Diversifiable Synthetic Platform for the Discovery of New Carbasugar SGLT2 Inhibitors Using Azide-Alkyne Click Chemistry. *Chemical and Pharmaceutical Bulletin*, **2023**, *71*, 240.

(2) Miyamoto, N., Sugito, N., Kitade, Y., and, Akao, Y., Growth inhibition of RAS-mutated hematopoietic tumor cells using glucose-attached reversibly ionic oligonucleotide-based nanoparticles caging chemically modified microRNA143-3p. *Journal of Drug Delivery Science and Technology*, **2023**, *88*, 104902.